

令和元年度（平成31年度） 第3回学校運営協議会 記録

実施日 令和2年2月7日（金） 14時00分～16時00分（協議会）

参加委員 小山 正辰 森ノ宮医療大学 特任教授
小林 和幸 箕面市立第一中学校 校長
星川 朗 一般社団法人 CIEE 国際教育交換協議会 エデュケーションコンサルタント
黒田 朋子 本校同窓会 光楓会（こうふうかい）会計
太田 沙織 本校PTA 副会長

事務局員 教頭 田中 徹
事務長 中川 秀明
首席 牧野 良昭

1. 報告

（1）保護者からの意見書の提出について（教頭報告）

- ・2月6日現在なし

（2）平成31年度学校教育自己診断結果について（牧野首席報告）

【生徒】

- ・1, 2年生の生徒では肯定値が低下しているものの、大きく低下しているものはなかった。
- ・良い点は、授業でアウトプットが増えたこと。将来を考える機会が増えたことを挙げている。
- ・授業の分かりやすさ、生徒指導の納得度については否定的な評価が多い。
- ・3年生の生徒は、肯定値が上昇している。進路指導の手厚さなどから教員への信頼が増したことが原因と考えられる。1,2年生でも同様の指導を行うことが課題である。
- ・3年生ではアウトプット型の肯定値は低く、レクチャー型授業が上がっている。これは小中学校と学習してきた形に安定感を感じているためと考えられる。
- ・レクチャー型授業からどのように主体的で深い学びに変容させていくのかが喫緊の課題である。
- ・国際交流への期待感はあるが、英語教育に対しては十分こたえきれていないのではないかと。
- ・生活指導の必要性は理解しているが、行動に表れていない。遅刻数の多さが物語っている。

【保護者】

- ・生徒と同じ傾向だが、保護者の肯定値は1, 3年生が上昇しているが、2年生で落ちている。これは学校の特色に対する肯定値が落ちていることが要因である。
- ・授業に対する評価はおおむね良好であり、生徒の評価とは乖離がある。これは、家庭での学校を話題とした会話が不足しているのではないかと考えられる。
- ・英語教育や国際交流に対する期待に十分応えられていないのではないかとという数値が出ている。これは本校において大きな課題と認識している。

【教員】

- 学校全体の肯定感があがっている。これはストレスチェックが低下していることからわかる。
- アンケート全体から見ると生徒との認識の乖離がある。これは、指導の意図が生徒にしっかり伝わっていないことが要因か？
- 初任者や若手教員への指導ができているという評価が高くなっている。

小林委員：先生たちの工夫が見られるアンケート結果だと思う。

星川委員：英語教育について先生方の取組みが良いのは確かだが、生徒に伝わっていないのは残念だ。

(3) 後期授業アンケート結果について（教頭報告）

- 前期に実施したものとほぼ変化なし。
- 生徒の家庭学習などの項目については、相変わらず低値であることが課題である。

（質問等なし）

小林委員：中学校では若い先生が多く、社会に初めて出る方も多い、人権課題等の研修をおこなっている。

(4) 令和2年度教科書採択について（教頭報告）

- 資料で示した通り採択した。

（質問等なし）

2. 協議

(1) 平成31年度学校経営計画に係る学校評価（案）について（校長説明）

「学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見」について

- 数値は、学校教育自己診断をまとめたもの。
- 概略として生徒と教員の認識の乖離が見られる。特に学習指導において肯定感が6割と低い。これは期待してもらっているのに、期待に応えられていないということ。
- 保護者の評価を見ていると、学校ホームページは見られていないことがわかる。工夫が必要。
- この後ご意見をいただいて、それも併せて記入する。

（質問等なし）

「学力の向上」の自己評価について

- 予習復習が上がっていない。生徒たちに刺激をあたえる授業が必要だと考える。
- 教員の組織の肯定感は大きく改善されている。

（質問等なし）

「グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開」について

- 英語教育に関しては予想より上回って勉強してくれている。様々なアウトプットの活動も積極的にやっている。

星川委員：CEFR B1 レベルは人数的には多いのではないか。国際交流等を考えたら TOEFL などを加えるのも必要だと思うが。

校長：学科改編に伴い、そのような取組みも進めていく予定。

「学習と部活・行事を両立しながらの進路指導・生徒指導の強化」について

- ・海外大学進学希望者説明会を12月に行った、卒業生からの提案から始めた。卒業生のみで運営している。今後拡充したい。
- ・進路結果についてはまだ出ていないが、今年は推薦を受けている生徒が増えたようだ。
- ・遅刻者数は多く、なかなか減らない。
- ・生徒会の評価が低いのは体育祭の縦割り編成において、1年生を展開したのが原因か。
- ・保護者がホームページを見ていない。

太田委員：写真などを多く載せるのは難しくなってきた、テキストが多くなっているのではなかなか見ない。

牧野：個人情報について、全保護者対象にホームページや広報誌の写真掲載の可否を聞いたところ掲載を拒否される方が一定数おられた。その結果、写真掲載は困難になってきている。

小林委員：中学校でも同じ状況になっている。写真掲載は難しくなっている。今は流れがその方向である。

小林委員：部活動も活発で、全国大会に出ているクラブもあり感心している。新たなクラブはできたのか？

校長：天文部ができた。合宿にも行って頑張っている。

校長：健康づくり推進学校として、優秀校に選出された。生徒たちの頑張りが認められた。

(質問等なし)

平成31年度学校経営計画については、原案のとおり了承された。

(2) 令和2年度学校経営計画(案)について

校長：「めざす学校像」の2.に「時代に沿った」という文言を入れた。

中期目標の説明(校長)

「1. 学力の向上」について

- ・文言等は変えていないが、数字は去年より上げた。

(質問等なし)

「2. グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開」について

- ・今年の結果を踏まえ、数値を挙げている。
- ・留学生は、今年は中国から来ている。学校交流も1回来ている。来年度も英語でできる交流ならば積極的に受け入れたい。

(質問等なし)

「3. 安全・安心な学びの場の中で、学習・行事・部活動の一層の活性化をはかる」について

- ・今年度と項目を変えている。府立学校における指示事項に合わせて変えている。
- ・安全安心は大阪府の学校のキーワードでもあり、これまで本校でも取り組んできている。経営計画にこれまで書いてなかったので、今回は項目を立てた。
- ・地域との連携の上、防災計画をすでに策定した。
- ・情報発信については、指標を変えている。自己診断の「教育情報の提供」の肯定率に変えた。

(質問等なし)

本年度の取組みの説明(校長)

「1. 学力の向上」について

- ・期待を込めて数値を上げている。
- ・若手教員の資質向上については、両首席が主導して教員研修会を定期的を開催してくれている。各学期2回ずつくらいでできている。

小山会長：研修会に参加している若手は何歳くらいか？

校長：30代の若手が多い。いつも20名くらいの参加者がいる。

「2. グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開」について

- ・特に変えていない。
- ・海外大学進学希望者説明会を和泉高校と共同で行う予定にしている。公開で行う。
- ・2年生の発表会は2回以上できる。今年度は修学旅行についての大規模なPBLになる。沖縄のPRを作るということでやる。事前学習は3学期から始めている。

「3. 安全・安心な学びの場の中で、学習・行事・部活動の一層の活性化をはかる」について

- ・中期計画の文章を入れている。
- ・スクールカウンセラーの拡充が必要。今年はいつも多くの相談がある。

小山会長：どれくらいの人数がいるのか？

校長：毎回3人から4人はいる。他にケース会議があり遅くまで対応していただいている。

- ・「教員のファシリテーション力を強化する」を付け加えた。これは生徒がアクティブラーニングをするためには、「教える」のではなく「学びの支援者」となることが必要であるため。

(質問等なし)

小山会長：では承認ということで、よろしく申し上げます。

以上